

三河の昆虫

MIKAWA NO KONCHU

The Mikawa Insects Association



2014年3月

〒444-3511

岡崎市舞木町狐山6-4

大平仁夫方

三河昆虫研究会発行

(郵便00830-9-14465)

パンチュートラップにきたオサムシ類

小鹿 亨・小鹿 登美

筆者の一人小鹿亨はパンチュートラップ（野ねずみ予察調査用トラップ）に、クロナガオサムシ *Leptocarabus procerulus* が誘引されることを報告している。

今回新たにミカワオサムシ *Ohomopterus arrowianus* が、パンチュートラップに入っているのを確認したので報告する。

《データ》 愛知県豊田市東大林町

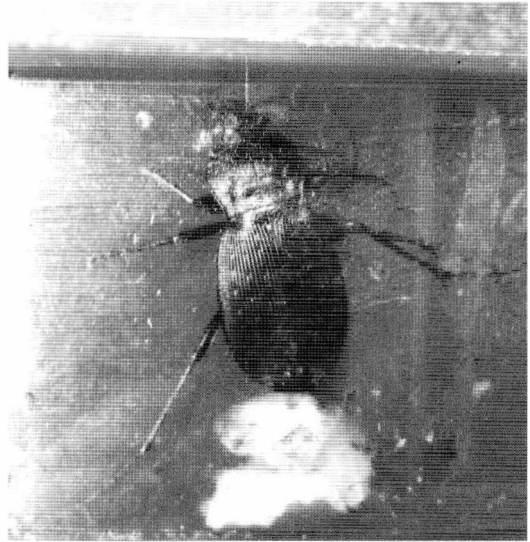
2013年8月16日

ミカワオサムシ1♀（写真）

クロナガオサムシ1♀

この報告のパンチュートラップは、小鹿登美が小型ほ乳類の調査のために、データに示す日付の前日に周辺のしかけたもののひとつで、セットされていたエサは、生のピーナッツであった。そして、ピーナッツがオサムシによってかじられた結果、止めていたフックがはずれて、樹脂製の板バネが閉じてトラップの中に閉じ込められたと考えられる。写真からもわかるように、食べ残されたピーナッツは、半分以上を食べられていた。このメスは、黒化型でいわゆる「黒ミカワ」であった。

一般に動物食と考えられているオサムシ類が、ピーナッツに誘引されることは興味深い。なお、今回のようにトラップが閉じないまでも、かじっ



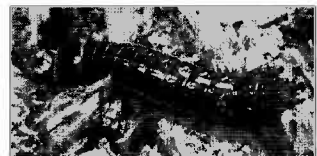
トラップにかかったミカワオサムシ

てそのまま逃げるのができた場合も考えられることから、実際にはさらに多くのオサムシがピーナッツに誘引されて、トラップを訪れている可能性もある。

このほかにもパンチュートラップには、夏期を中心にアリ類や森林性の大型のカマドウマ類がたくさん入ったり、サワガニがはいったりと、目的以外の生物が少なからず入る。

岡崎市でフタモンウバタマコメツキの幼虫を採集

筆者は岡崎市八ツ木町「おかざき自然体験の森」のクヌギの朽ち木の樹皮下で、図示した体長40mmほどの老熟に近い幼虫を採集した（29-IX-2013）。愛知県内で本種の幼虫が見出されたのは、これが最初である。体色は黒色で、黄橙色をしたウバタマコメツキとは識別できる。（大平仁夫）



愛知県におけるトゲハムシ亜科について

山崎 隆弘

日本に分布するトゲハムシ亜科 (Subfamily Hispinae) は9属14種が知られているが、この名が示すとおりトゲを有する形態をしているため、ハムシ科の中では特異なグループである。本亜科のものは主に熱帯地方に分布する種類であるため、愛知県に見られるものはあまり多くなく、これまでに2属6種が見出されているにすぎないが、分布の現状を整理して概要を記述したいと思う。日ごろ御指導や、調査で大変お世話になっている大平仁夫博士、浅岡孝知氏、伊藤昭博氏、三河昆虫研究会の諸氏に対しここに厚くお礼申し上げる。

愛知県に産するトゲハムシ亜科

Subfamily Hispinae

これまでの文献のデータを基に、筆者の採集品で未発表のものを追加データとして加えたものである。この標本は筆者の基で保管している。

トゲハムシ属 Genus *Dactylispa*

1. カタビロトゲハムシ

Dactylispa sabquadrata (Baly, 1874) [図3]

本州以南から海外では中国に分布する暖地系の種で、カシワ類・ナラ・クヌギ・クリ・アベマキ

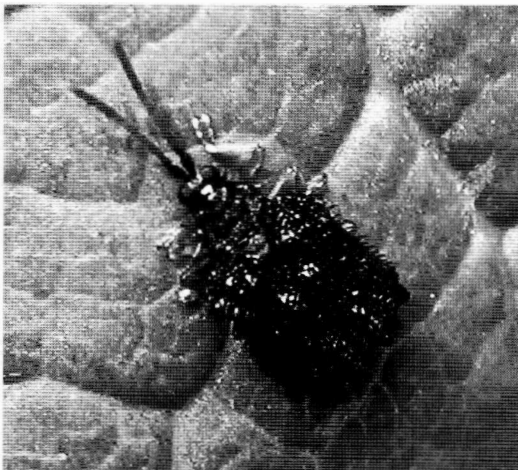


図1. 三河本宮山のフキ上のキベリトゲハムシ

などのある環境下でよく得られる種である。愛知県では平地から低山地にかけて生息しており多くの記録がある、これまでに犬山市 (愛岐丘陵・八曾・塔野池)、瀬戸市定光寺、名古屋市 (東区建中寺・守山区志段味・名東区猪高緑地)、豊明市間米町榎山、阿久比町板山、豊田市 (六所山・猿投山・亀首町・勘八山など各地)、岡崎市 (池金・大幡・高隆寺など各地)、幸田町 (深溝・長嶺)、新城市 (日吉・船着山・七郷一色・鳳来寺山など)、豊川市 (財賀寺・千両・平尾・宮路山・御津町金野など)、蒲郡市 (遠望峰山・御堂山)、豊橋市 (石巻山・葦毛湿原・細谷町・本坂峠・伊古部表浜海岸など) で記録されている。しかし、尾張西部や知多半島南部、奥三河山岳部、渥美半島の田原市、三河湾島嶼からはまだ見出されていない。

<追加データ>

豊田市上高町, 1ex., 9. V. 2013.

岡崎市八ッ木町自然体験の森, 1ex., 2. V. 2013.

豊川市平尾町四季の森, 3exs., 18. V. 2009.

豊川市平尾町四季の森, 3exs., 7. IV. 2010.

豊川市平尾町四季の森, 2exs., 4. V. 2011.

豊川市平尾町四季の森, 1ex., 17. V. 2011.

新城市富岡大原調整池, 2exs., 21. IV. 2010.

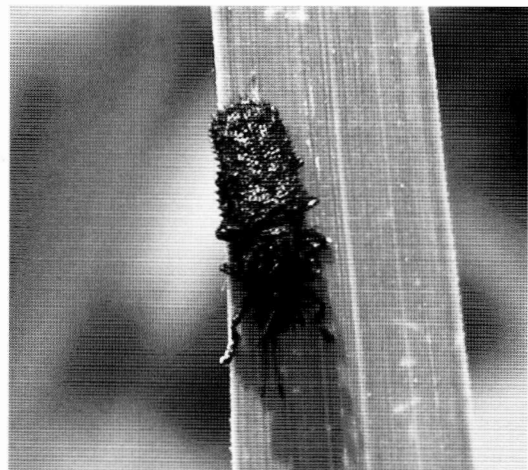


図2. 知立市猿渡川に多いクロトゲハムシ

豊川市千両町, 2exs.,8. VI .2011.
 蒲郡市相楽町御堂山, 1ex.,7. IV .2010.
 豊橋市細谷町海岸, 1ex.,6. IV .1991.
 豊橋市伊古部町海岸, 1ex.,1. VI .2007.

2. ヒゴトゲハムシ

Dactylispa higoniae (Lewis,1896) [図4]

本州以南から海外では中国南部や台湾に分布する暖地系の種で、寄主植物のムラサキシキブやヤブムラサキにおり、この地方に産するトゲハムシの仲間では最も長いトゲを有している。愛知県では低山地から中山地にかけて生息しており春期から秋期にかけて見られる。場所によっては一度に数頭が得られることもあるが、産地は限られていてやや希な種である。これまでに愛知県からは豊田市(西広瀬町・一木町南山・勘八牧場・羽布町根山)、岡崎市鳥川、新城市作手高里川尻城址から記録されているが多くない。最近になって、各地で寄主植物のムラサキシキブの調査を行った結果、以下のとおり広い範囲から見出すことができた。

<追加データ>

新城市作手黒瀬庄ノ沢, 2exs.,23. V .2013.
 新城市作手黒瀬庄ノ沢, 4exs., 14. VI .2013.
 新城市作手白鳥, 5exs.,7. VI .2012.
 新城市作手高里巴山, 1ex.,31. VIII .2011.
 新城市浅谷, 1ex.,19. IX .2011.
 新城市黄柳野, 2exs.,14. VI .2013.
 豊川市御津町金野, 1ex.,30. IX .2013.
 豊橋市多米町赤岩寺, 1ex.,12. IX .2012.

3. ヒメキベリトゲハムシ

Dactylispa angulosa (Solsky,1872) [図5]

北海道・本州・四国・九州・対馬に分布し、海外では朝鮮半島、シベリアや中国に分布している寒地系の種で、寄主植物のサクラ類から得られることが多い。山地性の種で愛知県では三河山地に広く分布しているが、尾張地方から海岸部にかけてはまだ記録がない。岡崎市上衣文(大平1985)の記録が本県の最も低地の記録である。これまでに愛知県からは豊田市(中金町・茶白山高原道路・

井山谷・面ノ木峠)、岡崎市(上衣文・蔵次町・本宮山・千万)、豊根村(茶白山・三沢舟ノ沢・新野峠付近・宝地峠)、設楽町(段戸裏谷・塩津)、新城市(船着山・阿寺・作手高里・作手守義・作手高里巴湖・作手善夫・作手高松)、豊川市金沢から記録されているがいずれも個体数は多くない。

<追加データ>

新城市浅谷, 1ex.,15. VI .2012.

4. キベリトゲハムシ

Dactylispa masonii Gestro,1923 [図6]

北海道・本州・四国・九州・対馬に分布し、海外では朝鮮半島、東シベリアや中国に分布している寒地系の種で、寄主植物はフキのほかキク類が知られている。一般に山地性の種で普通フキで得られることが多い。愛知県では三河山地に広く分布しており、尾張地方から海岸部にかけては希であるが、三河湾島嶼の佐久島(山崎・穂積1990)には記録がある。これまでに愛知県では豊田市(六所山・中金町・志賀町・坂上町・松平町・琴平町・面ノ木峠)、岡崎市(千万町・本宮山)、西尾市一色町佐久島、豊根村(茶白山・三沢・宝地峠付近)、設楽町(田口・段戸裏谷・東納庫・栃洞・桑平・塩津・神田)、新城市(船着山・七郷一色・大島川・鳳来寺・阿寺・作手守義・作手田原・作手高里)、豊川市足山田から記録されている。いずれも個体数は多くなく、前種のヒメキベリトゲハムシと産地が重なっている場合が多い。

<追加データ>

岡崎市雨山町雨山ダム, 1ex.,21. VI .2011.
 新城市作手高里川尻城址, 1ex.,14. V .2005.
 新城市横川, 1ex.,25. VI .2005.
 豊橋市多米町赤岩山, 1ex.,12. IX .2012.

クロトゲハムシ属 Genus *Hispellinus*

5. クロトゲハムシ

Hispellinus moerens (Baly,1874) [図7]

本州・四国・九州に分布し、海外では東シベリア・中国・台湾に分布している暖地系の種で、寄主植物はススキである。主に河川敷や湿地周辺や海岸部のススキに普通に見られる。愛知県では尾

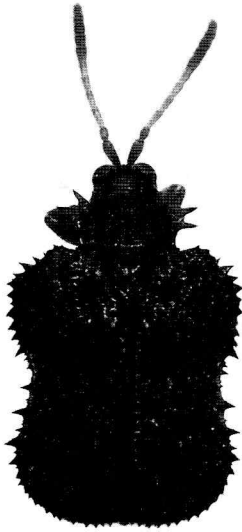


図3. カタヒロハムシ
渥美半島田原市産

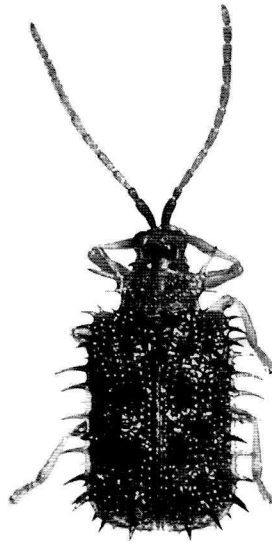


図4. ヒゴトゲハムシ
豊田市西広瀬町産

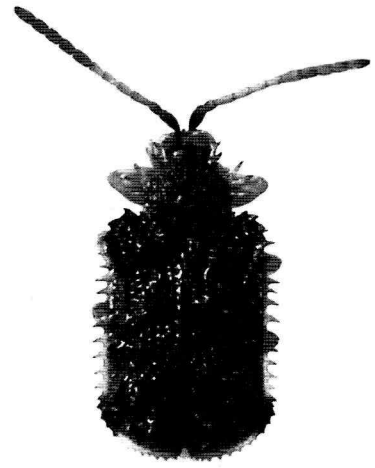


図5. ヒメキベリトゲハムシ
新城市産

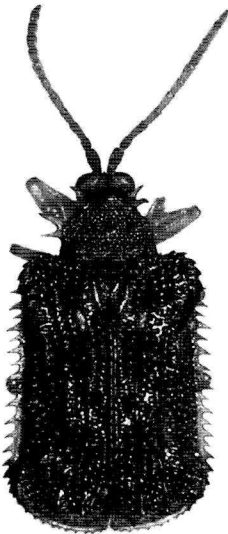


図6. キベリトゲハムシ
新城市本宮山産

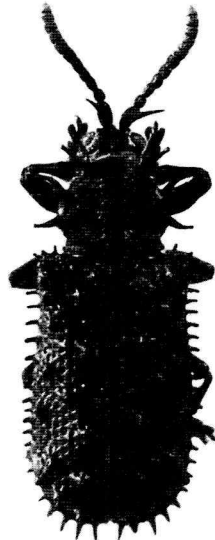


図7. クロトゲハムシ
新城市本宮山産

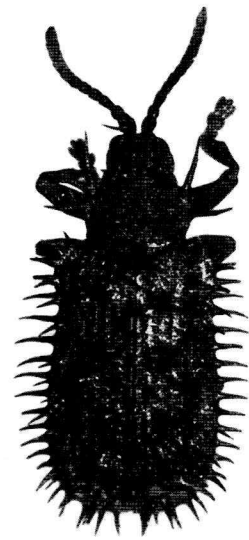


図8. クロリトゲハムシ
設楽町段戸裏谷産

張地方から三河地方の南部にかけて広く分布している。これまでに愛知県では犬山市(官林・塔野池・木曾川堤)、春日井市、尾張旭市矢田川原、名古屋市中川区松陰公園・港区土古町・北区庄内川原・中村区庄内川原)、知多市、豊田市(竜宮町・中島町・白浜町・千石町・森町・長興寺・能見公園)、岡崎市本宮山、設楽町田口、蒲郡市西浦半島、豊橋市(葦毛・下五井町・梅藪町・吉前町・神野新田町海岸・下条西町)から記録されている。奥三

河地域には少なく、知多半島の中南部、渥美半島、三河湾島嶼からはまだ記録がない。

<追加データ>

知立市逢妻町逢妻川河川敷, 1ex.,5. X .2013.

知立市牛田町向田, 1ex.,25. V .2013.

知立市来迎寺町猿渡川, 1ex.,21. IX .2013.

西尾市西奥田町矢作川河川敷, 4exs.,22. V .2013.

新城市高里巴山, 3exs.,21. VII .2013.

豊橋市吉前町海岸, 12exs.,30. X .2013.

豊橋市吉前町海岸, 1ex., 18. VI. 2013.

豊橋市前芝町豊川邦水路左岸, 2exs., 30. X. 2013.

豊橋市前芝町, 1ex., 4. XI. 2013.

6. クロルリトゲハムシ

Rhadinosa nigrocyanea (Motschulsky, 1861) [図 8]

本州・四国・九州に分布し、海外では朝鮮半島・東シベリア・中国に分布している寒地系の種で、寄主植物はススキである。愛知県では主に奥三河山地に分布しているが、知多半島や西三河南部や三河地方南部から渥美半島にかけては未知である。いずれの場所も個体数的にはそれほど多くないようであり、平地では尾張地方の愛西市や豊田市矢作川で記録がある。これまでに愛知県では愛西市立田・豊田市(川田町・寺部町・記念橋・黒田ダム)、旭高原元気村、豊根村(茶臼山・三沢・黒川)、設楽町(段戸裏谷、田口・駒ヶ原・宇連本谷・西川林道・菅平・キビウ)、新城市七郷一色などから記録されているが産地は多くない。

<追加データ>

新城市高里巴山, 1ex., 31. VIII. 2011.

新城市高里巴山, 1ex., 21. VII. 2013.

あとがき

当地方に分布するトゲハムシ亜科6種の分布型は2つに分けられる。ひとつは、東三河山地から南西方向への分布を示すヒメキベリトゲハムシ、キベリトゲハムシ、クロトゲハムシの3種がある。いずれも分布の中心は奥三河山岳地域にあって標高が低くなるにしたがって個体数や産地が減少してゆく寒地系の種である。もうひとつは、低山地から平地に生息しているもので、尾張北部から東三河南部方向への分布を示すのが、カタビロトゲハムシ、クロトゲハムシ、ヒゴトゲハムシの3種である。いわゆる里山に分布する暖地系の種である。こうした6種の中には若干の気になる点が見受けられたので簡単に記述しておきたい。キベリトゲハムシは、フキの葉上で普通に目撃できる種であったが、最近は少なくなったような気がする。草刈や除草剤の影響があるのかは不明であるが、減少傾向にあるように思われる。もうひとつはヒ

ゴトゲハムシであるが、現在、中山地域の里山を中心とした場所からよく見出されているが、不思議なことにピーティング採集を長年続けているが、本種が得られるようになったのはここ数年のことである。旧来から生息していたかどうかは分からないが、小型種のため見逃していたのかも知れないし、温暖化による影響なのかも知れない。種の動向は一定ではないが興味深く思えた点である。これらの種を含め今後も関心を持って注目してゆきたい。

ここに愛知県に産する現時点でのトゲハムシ亜科の概要をまとめてみたが、今後委ねる部分も少なくない。しかしながら、これらの小甲虫が持つ魅力と重ねあわせて、郷土の昆虫相の究明がさらに進展することを望みたい。

引用文献

1. 大平仁夫 (1985) 岡崎市の甲虫類. 新編岡崎市史 (14) 自然: 1024-1096. 岡崎市.
2. 蟹江 昇 (2005) 豊田市の昆虫類・甲虫目. 豊田市自然環境調査報告書 (資料編): 161-236.
3. 木元新作・滝沢春雄 (1994) 日本産ハムシ類成虫・幼虫分類図説. 東海大学出版協会. 539pp.
4. 山崎隆弘 (2006) 甲虫類 (II). 作手村誌 (資料編): 200-259. 新城市.
5. 山崎隆弘 (2008) 本宮山のハムシ図譜. 三河本宮山昆虫誌: 35-39. 大平仁夫環境大臣受賞記念誌. 三河昆虫研究会. 108pp.
6. 山崎隆弘 (2011) ヒゴトゲハムシ愛知県新城市に産する. 三河の昆虫. (58): 735.
7. 山崎隆弘・浅岡孝知 (1990) 三河湾島の昆虫. 自刊. 469pp.
8. 山崎隆弘・穂積俊文 (1990) 愛知県のハムシ科. 愛知県の昆虫 (上). : 434-460. 愛知県.

愛知県産ジョウカイボン科の記録 (3)

桐山 功

愛知県からのジョウカイボン科は「愛知県の昆虫」など多数の文献で報告されているが、Yajima & Nakane(1969)の研究以前に報告された種は殆どが外部形態のみで同定されている。近似種が多い *Lycocerus* 属や *Asiopodabrus* 属などでは♂交尾器や♀腹部末端部の観察を含めた識別法を利用しなければ、見誤ることが多い。大形の種であるジョウカイボン群にしても上記文献の示す通りであり、東海地方にはジョウカイボンとクロジョウカイ、クラヤミジョウカイの3種が分布しており、外形や色彩だけでは確実に識別ができない。

さらに、ジョウカイボン科の研究は2000年以降に急速に進み、種の記載や属名の変更、シノニムとされた種が非常に多い。筆者が本誌に報告した記録の中にも属名が変更されたり、種がシノニムとされたものが相当ある。

以上のことを踏まえた上で、筆者が記録した報告について訂正しなければならない種や新たに記録が追加された種を以下に報告したい。

なお、本文を記するに当たって資料を提供して頂いた蟹江昇氏と高村朋佳氏、矢崎充彦氏、山崎隆弘氏に厚くお礼申し上げる。

愛知県からの新記録種

1. *Asiopodabrus (Nakanepodabrus) kasugensis*

(Nakane et Makino, 1989)

カスガクビボンジョウカイ

豊田市石野野口町水別日影, 17-V-2000, 1♂, 山中洋採集.

豊田市石野山中町, 2-V-2013, 2♂♂, 桐山功採集.

豊田市石野山中町, 14-V-2013, 2♀♀, 桐山功採集.

本種は日本各地の山地に多い *A. kadowakii* に近似な種で、体表面がやや青味を帯びた黒色で光沢がなく、鮫肌状に刻まれていることと、♂交尾器の背面突起が短いことが特徴である。

奈良市春日を模式産地として記載された種であるが、その後、奈良県南部や和歌山県、三重県、

岡山県、広島県、愛媛県からも記録され、遂に伊勢湾を越えた愛知県にも生息が確認できた。

3. *Asiopodabrus (Asiopodabrus) kiriyamai*

(Takahashi, 2002) キリヤマクビボンジョウカイ

豊田市稲武大野瀬町三国山, 17-V-1999, 1♂

1♀, 桐山功採集.

今までに岐阜県や静岡県からの記録はあったが、愛知県からは確認されていなかった。関東地方から東海地方にかけて分布するようである。

4. *Lycocerus oedemeroides* (Kiesenwetter, 1874)

クビアカジョウカイ

豊田市小原大平町, 23-V-2003, 1♀, 桐山功採集.

日本各地で少しずつ採集されている本種は、今まで愛知県からの記録が見当たらない。これが初記録である。

愛知県への追加記録と記録を訂正した種

1. *Asiopodabrus (Asiopodabrus) naratougeanus*

(Takahashi et Kiriyama, 2000)

ナラトウゲクビボンジョウカイ

設楽町段戸山, 27-V-1996, 1♀, 桐山功採集.

設楽町裏谷, 25VI-1997, 1♀, 桐山功採集.

豊田市稲武大野瀬町三国山, 5-VII-1999, 3♂,

桐山功採集.

豊田市稲武稲武町面ノ木峠, 21-V-2001, 2♂

1♀, 桐山功採集; 9-VI-2001, 1♀, 桐山功採集.

桐山(1997)が近似の *Podabrus syozoi palustris* を設楽町段戸山井戸沢から記録しているが、この記録は本種のことであり、これは本種が新種として記載される以前のことであったので、改めて訂正したい。

2. *Asiopodabrus (Asiopodabrus) kuroisawanus*

(Takahashi et Kiriyama, 2000)

クロイサワクビボンジョウカイ

豊田市稲武大野瀬町三国山, 17-V-1999, 1♂,

桐山功採集.

本種は恵那山麓の岐阜県中津川市黒井沢が模式

産地とされ、今まで岐阜県と長野県、静岡県、愛知県の山地から記録されている。桐山(2001)が豊田市稲武稲武町面ノ木峠から本種を記録したとき、なぜかこの三国山の記録は落ちていた。

3. *Asiopodabrus (Asiopodabrus) bilineatus takaii*

(Nakane et Makino, 1990)

タカイクビボソジョウカイ

一宮市北方町宝江, 23-IV-2001, 1♂1♀,

桐山功採集.

犬山市入鹿, 28-IV-2001, 3♂1♀, 桐山功採集.

岡崎市池金町, 21-V-1994, 1♂, 山崎隆弘採集.

豊田市石野野口町, 17-V-2003, 1♂1♀,

山崎隆弘採集.

豊田市松平大内町, 6-V-2008, 1♂1♀,

山崎隆弘採集.

これまで桐山(1998, 2000, 2004)と蟹江(2005)が設楽町や豊田市などから多数記録してきた *A. takaii* は、Takahashi(2012)によって *A. (A.) bilineatus* の亜種に降格された。

4. *Asiopodabrus (Asiopodabrus) takaosanus*

(Nakane et Makino, 1990)

タカオクビボソジョウカイ

設楽町弁天平, 14-VI-2004, 1♂, 山崎隆弘採集.

今まで *Asiopodabrus hinakurai* として桐山(1999, 2000, 2001, 2004)が設楽町段戸山と同町井戸沢、同町裏谷と豊田市保見広幡町四ツ屋、同市稲武稲武町面ノ木峠、同市稲武大野瀬町三国山から、さらに蟹江(2005)が豊田市保見広幡町から記録しているが、これは本種のことである。この *A. hinakurai* は Takahashi(2012)によって本種の下位シノニムとされた。

5. *Asiopodabrus (Asiopodabrus) hagai*

Takahashi, 2012 ハガクビボソジョウカイ

設楽町胡麻沢, 24-VI-1996, 1♀, 桐山功採集.

豊田市稲武稲武町面ノ木峠, 2-VI-2000, 2♂2♀,

桐山功採集.

桐山(1997)が *Podabrus kansaiensis* を設楽町段戸山井戸沢と同町裏谷から記録したが、この記録は本種のことである。Takahashi(2012)によって *Podabrus kansaiensis* は *A. (A.) shimashimanus* (Nakane et Makino, 1989) シマシマクビボソジョウ

ウカイの下位シノニムとされ、本種が近似の新種として記載されたので、改めて訂正したい。

本種は静岡県安倍峠が模式産地となっており、今回の記録で神奈川県から愛知県東部や岐阜県南東部まで分布することになる。

6. *Themus (Haplothemus) ohkawai* M. Sato, 1976

カタキンイロジョウカイ

設楽町裏谷, 14-VI-2005, 1♂, 山崎隆弘採集.

岡崎市池金町, 21-V-1994, 1♂, 山崎隆弘採集.

大形の美麗種であり、局地的にしか産しないと言われてきた本種も、愛知県の東部からは割合多く採集されるようで、奥島(1997, 2001)や、蟹江(2005)、長谷川(1996a, 1996b)、桐山(2004)、佐藤(1976, 1990)が設楽町や豊田市、豊根村、新城市などから多数を記録している。

7. *Lycocerus yoto* (Takahashi, 1992)

ヤトセスジジョウカイ

瀬戸市北白坂町東京大学演習林, 1-V-1997, 2♀,

桐山功採集.

豊田市藤岡木瀬町, 17-IV-2008, 2♂,

高村朋佳採集.

岡崎市池金町, 17-IV-1994, 2♂, 山崎隆弘採集.

本種は後2種と近似しており、識別が難しい種である。

Okushima(2005)や雛倉(2001)、長谷川(1996a)、桐山(1997, 2001, 2002a)が新城市と豊田市、岡崎市、尾張旭市、設楽町などから記録している。

8. *Lycocerus babai* (Ishida, 1986) ババジョウカイ

豊田市稲武黒田町, 18-V-2008, 3♂1♀,

蟹江昇採集.

豊田市下山梨野町田之士里湿原, 6-V-2008,

3♂1♀, 蟹江昇採集.

これまで Okushima(2005)と雛倉(2001)が豊田市や日進市、設楽町、新城市などから記録している。

9. *Lycocerus magnius* (Ishida, 1986)

セスジジョウカイ

豊田市小原荷掛町, 7-V-2008, 1♀, 桐山功採集.

これまで Okushima(2005)と Ishida(1986)、雛倉(2001)、桐山(2002a, 2002b, 2004)、佐藤(1990)が新城市と豊田市、瀬戸市、春日井市、岡崎市、犬

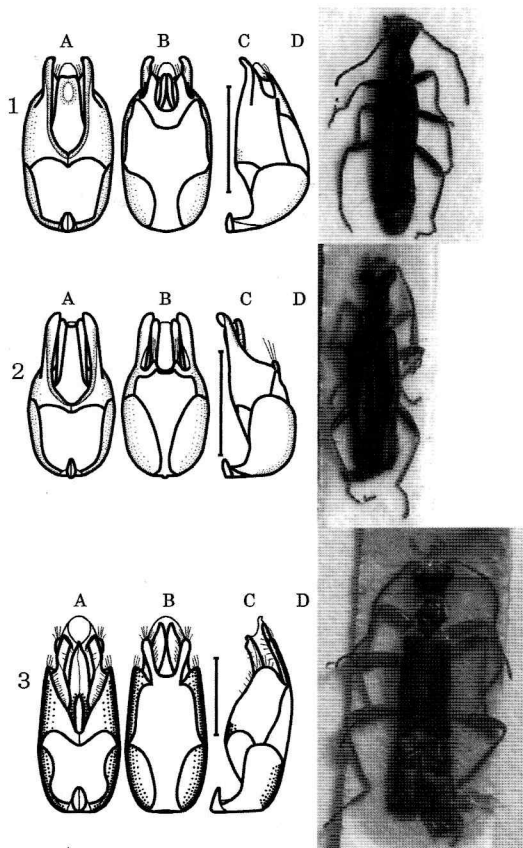


図1. カスガクビボソジョウカイ (豊田市山中町)
 図2. カドワキクビボソジョウカイ (面ノ木峠)
 図3. キリヤマクビボソジョウカイ (三国山)
 各図は共に A～Cは♂交尾器で、A:腹面、B:背面、
 C:側面、Dは♂個体の背面
 (スケール:0.5mm)

山市などから記録している。

10. *Malthinus japonicus* Ohbayashi, 1949
 クロツマキジョウカイ
 豊田市赤坂町宮路山, 28-V-2003, 1 ♀,
 桐山功採集。
 豊川市長沢町, 13-V-2003, 1 ♀, 桐山功採集。
 これまでに本種は桐山(2001)と蟹江(2005)が豊
 田市から記録している。

11. *Malthinus humeralis* Kiesenwetter, 1874
 キアシツマキジョウカイ
 豊田市稲武稲武町面ノ木峠, 26-VII-2008, 1 ♂,
 矢崎充彦採集。
 前種とともに小型種で見過ごされることが多
 く、これまでに本種は奥島(2001)が豊田市旭八幡

町八幡元気村から記録している。

文献

奥島雄一, 1997. カタキンイロジョウカイとキイロジョウ
 カイの追加記録. 倉敷市立自然史博物館研究報告, (14):
 51-53.
 Y. Okushima, 2005. A taxonomic study on the genus
Lycocerus from Japan with zoogeographical
 consideration. Jpn. J. syst. Ent. Matsuyama, Mono. (2):
 52.
 奥島雄一, 2001. ジョウカイボン科. 旭町の昆虫: 124-126.
 長谷川道明, 1996a. 甲虫類ジョウカイボン科. 設楽町誌自
 然編資料: 449-551.
 長谷川道明, 1996b. 昆虫類ジョウカイボン科. 稲武町史自
 然資料: 210-211.
 鎌倉正人, 2001. 長野県とその周辺のヤトセスジジョウカ
 イ(形態的特徴と生息環境について). 伊那谷自然史論集
 , 2: 47-53.
 K. Ishida, 1986. A revision of the two genera *Athemus*
 and *Athemellus* of Japan. Trans. Shikoku ent. Soc., 17(4):
 204.
 蟹江昇, 2005. 豊田市自然環境基礎調査報告書(資料編):
 コウチュウ目
 桐山功, 1997. 段戸山の軟鞘類(1). 三河の昆虫, (44): 427-
 430.
 桐山功, 1998. 岐阜県産ジョウカイボン科甲虫の記録(2).
 啓蟄, 16(38): 8-20.
 桐山功, 1999. 岐阜県産ジョウカイボン科甲虫の記録(3).
 啓蟄, 17(40): 13-17.
 桐山功, 2000. 三国山の軟鞘類, 三河の昆虫, (47): 484-488.
 桐山功, 2001. 愛知県ジョウカイボン科の記録. 三河の昆
 虫, (48): 504-509.
 桐山功, 2002a. 愛知県産ジョウカイボン科の記録(2). 三河
 の昆虫, (49): 519-523.
 桐山功, 2002b. 山中洋氏採集の愛知県産軟鞘類. 三河の昆
 虫, (49): 530-531.
 桐山功, 2004. 山中洋氏採集の愛知県産軟鞘類(2). 三河の
 昆虫, (51): 574-578.
 M. Sato, 1976. New Cantharidae from Japan (Coleoptera).
 Trans. Shikoku Ent. Soc., 13: 53.
 佐藤正孝, 1990. 愛知県の甲虫類(I). 愛知県の昆虫, 204-

231.

K. Takahashi, 2012. A taxonomic study on the genus *Asiopodabrus* of Japan. Jpn. J. syst. Ent., Monog. series, (4): 1-328

Yajima & Nakane, 1969. On the species of the genus

Athemus Lewis in Japan, with description of a few new forms. Bull. Nat. Sci. Mus. Tokyo, 12(2): 186

愛知県でのサトキマダラヒカゲの蛹化場所の確認例

大曾根 剛

愛知県のサトキマダラヒカゲ *Neope goschkevitschii* は、近年、名古屋市等の都市部およびその近郊では生息環境の乾燥化が進行して個体数が激減しているが、それ以外の平野部～奥三河の茶臼山山頂付近では広く分布し、知多半島の中南部のように多産する場所もある。平野部では年2回発生し、卵は主にマダケ等の葉の裏面に卵塊で生まれ、孵化後、若齢幼虫しばらくは集団で生活するが、3齢幼虫以降は分散して単独で生活する。蛹は飼育下では枯葉等を粗く綴って、その中で幼虫は仰向けの姿勢で蛹化する。しかし、野外における蛹化場所の観察例は非常に少なく、愛知県での記録は過去1例のみであった。

筆者は2013年2月9日、愛知県岡崎市秦梨町正道の乙川河川敷で、偶然に本種の蛹を発見した。場所は河川敷に自生する樹高約8m、45°位に傾斜して自立しているカワヤナギの樹幹上で、この地上約1mの樹幹表面に増水で漂着したビニール製の土嚢袋の切れ端が引っ掛かっており (Fig.1)、それを強制的に剥したところ、樹幹が比較的平坦で窪みになった部分との間隙に、姿勢が仰向けになって転がっていた蛹を発見した (Fig.2)。この部位は比較的湿度が保持されているようで、ゴミムシダマシ等の他の昆虫の越冬集団も多数観察された。なお、この河畔林の林床にはマダケが自生しており、これに発生・生育した幼虫が蛹化の際、樹幹上を歩行し、このような比較的高い位置に移動してきて、間隙中で蛹化したものと思われた。この



図1. サトキマダラヒカゲ蛹化場所の環境



図2. 発見された蛹

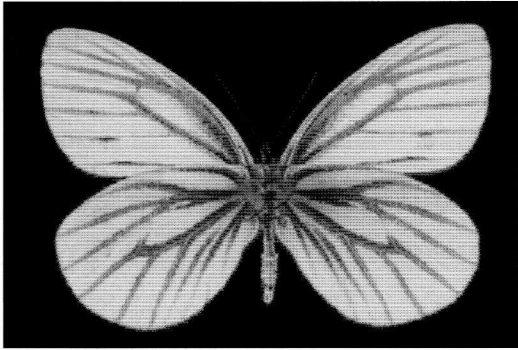
蛹は5月2日に1♀が羽化し、本種であることを確認した。

最後に本報告にあたり、いろいろとご教示いただいた高橋昭氏に厚くお礼申し上げる。

岡崎市産蝶類の興味深い種の記録とその解説 (2)

杉坂美典

(8) ヤマトスジグロシロチョウ

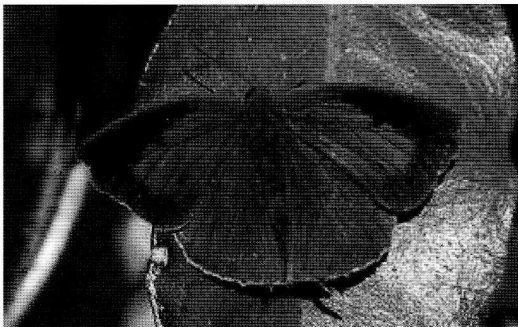


<記録>

- ・岡崎市山中町, 1970.4.20, 1♂, 高橋 昭
- ・岡崎市池金町, 1979.3.31, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市上文町, 1982.4.5, 1♂, 松井直人
- ・岡崎市本宿町, 1998.4.11, 1♂, 松井直人

岡崎市では、上記の4例の記録があるのみである。近似種のスジグロシロチョウとの区別が容易でないことが、記録が少ない原因と思われる。しかし、夏型の記録が全く出ないのも不思議でならない。

(9) ムラサキツバメ



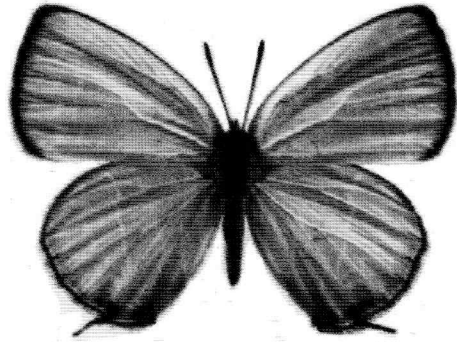
<記録>

- ・岡崎市桜井寺町, 2009.12.6, 1♂1♀, 判家卓司
- ・岡崎市池金町, 2010.2.27, 1ex, 杉坂美典
- ・岡崎市大門3丁目, 2010.11.22, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市若松町, 2011.3.14, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市岡町, 2011.4.1, 1♂1♀, 杉坂美典
- ・岡崎市日名南町, 2011.12.4, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市六名3丁目, 2012.10.16, 1♂, 杉坂美典

岡崎市では、2009年12月が最初の記録で、それ以降、年々各所で見られるようになった。学校

や公園などに植林されているマテバシイを食草とし、成虫で越冬するため、温暖化の影響を受けて、今後も広範囲に広がっていくと思われる。

(10) ウラクロシジミ



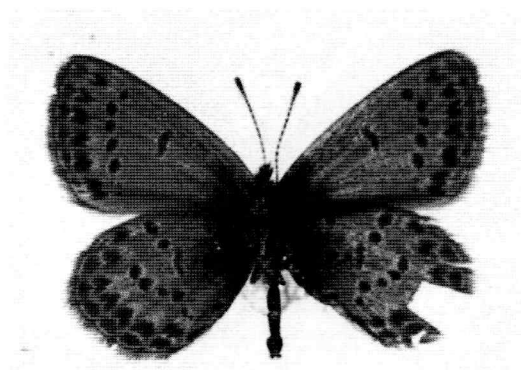
<記録>

- ・岡崎市池金町, 1986.4.15, 2♂♂, 杵名 誠
- ・岡崎市池金町, 1986.4.19, 1♂, 杵名 誠
- ・岡崎市池金町, 1987.2, 1卵, 杵名 誠
- ・岡崎市池金町, 1996.2.12, 3卵, 鈴木光司

1990年前後には、尾張地方の北部の丘陵地や三河地方に発生していたが、2000年以降、食樹のマンサクが大量に枯れるようになり、尾張地方では、全滅する場所も現れた。

岡崎市では、池金町の北山湿地を流れる小川沿いに生えていたマンサクの周辺で生息していた。1986年6月に池金町で3頭の雄が記録され、1987年2月には、マンサクの越冬芽から卵が採集された。その10年後の1996年にも卵が採集され、1997年6月には、その卵から成虫が羽化している。しかし、2000年以降は、多産地であった尾張地方の北部では激減し、三河地方からも記録が出ていない。2005年から2012年にかけて、岡崎市の各所を調査したが、池金町のマンサクは全滅し、藤川町のマンサク林も激減し、本種の最近の記録はない。

(11) シルビアシジミ



<記録>

- ・岡崎市下佐々木町, 1957.9.22, 不明, 平井・倉橋
- ・岡崎市下佐々木町, 1964.4.30, 3♂♂2♀♀, 太田達之
- ・岡崎市下佐々木町, 1964.5.10, 3♂♂2♀♀, 太田達之

岡崎市では、下佐々木町の矢作川堤防にのみ生息していた。1959年の伊勢湾台風の際、矢作川堤防は、決壊寸前の状態になり、一時、生息地は水没した。しかし、翌年には発生し、1964年までは、発生を繰り返した。岡崎市では、1964年の下佐々木町の記録が最後となった。発生地は、矢作川にかかる美矢井橋の西側の堤防法面に広がるミヤコグサの群落であったが、堤防の改修工事によって、法面がコンクリートで覆われ、絶滅した。

(12) サツマシジミ



<記録>

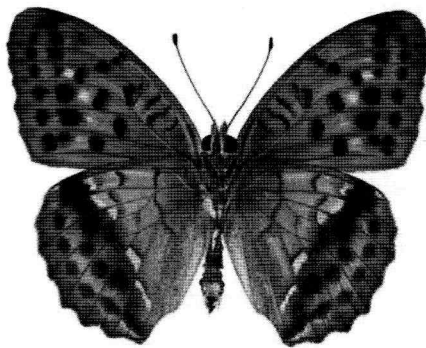
- ・岡崎市石原町, 2010.6.10, 1♂, 判家卓司

地球温暖化の影響で、分布を北上させた種の1つである。2008年には、豊橋市や蒲郡市では、多産するようになり、2009年には、岡崎市の近隣の

安城市、西尾市でも記録が出て、岡崎市では、2010年ようやく上記の記録が出た。

本種が岡崎市の北部に位置する本宮山のくらがり溪谷で記録された理由は、この山が、東三河の平野部の北端に位置し、豊橋市や蒲郡市などの平野部の発生地を通過する南風が北上することによって、本種を運んだ可能性が高い。しかし、2008年以降、市内の各所を探索したが、上記の記録以外は出ていない。

(13) ウラギンスジヒョウモン

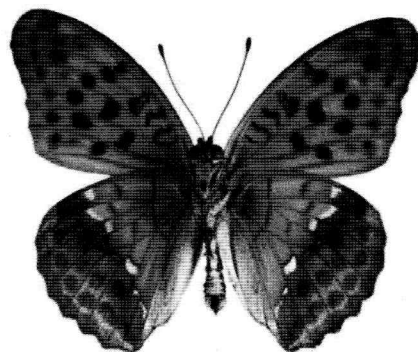


<記録>

- ・岡崎市大幡町, 1976.7.4, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市池金町, 1979.6.10, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市竜泉寺町, 1980.6.15, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市本宿町, 1980.6.22, 1♂, 松井直人

岡崎市でも、1970年代から1980年にかけては、市の東部の丘陵地に広く分布し、大幡町、池金町、竜泉寺町、本宿町で記録があり、ヒョウモンチョウ類の中では少ない種ではなかった。しかし、1990年頃からは激減し、最近では記録がない。

(14) オオウラギンスジヒョウモン

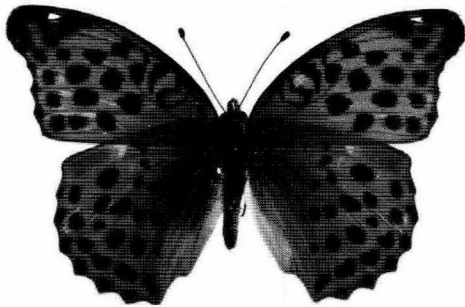


<記録>

- ・岡崎市小呂町, 1976.5.23, 1♀, 阿江 茂
- ・岡崎市池金町, 1978.6.15, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市本宿町, 1979.8.12, 1♀, 松井直人
- ・岡崎市本宿町, 1981.6.24, 1♂, 松井直人
- ・岡崎市本宿町, 1982.6.16, 1♂, 松井直人
- ・岡崎市高隆寺町, 2003.6.7, 1♂, 柵木宗孝
- ・岡崎市高隆寺町, 2003.9.30, 2♀♀, 柵木宗孝
- ・岡崎市高隆寺町, 2010.6.6, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市ハツ木町, 2011.10.9, 1 ex, 三浦重光

岡崎市では、1970年代、1980年代では、小呂町、池金町、美合町、本宿町、高隆寺町などで発生しており、数頭がアザミの花に集まっているのを確認することができた。しかし、2000年を過ぎたころから記録が少なくなり、現在では、年間に1頭の記録が辛うじて出る程度になった。

(15) クモガタヒョウモン

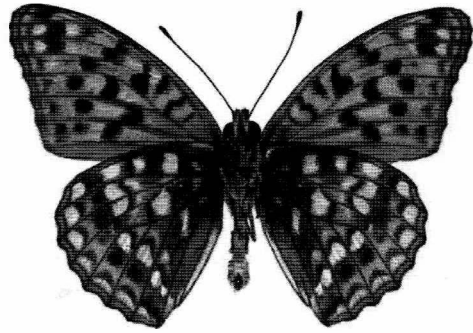


<記録>

- ・岡崎市大幡町, 1981.6.21, 1♀, 杉坂美典
- ・岡崎市山綱町, 1982.8.31, 1♀, 杉坂美典
- ・岡崎市高隆寺町, 1997.5.18, 1♂, 鈴木崇史
- ・岡崎市高隆寺町, 2003.6.15, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市ハツ木町, 2011.10.18, 1 ex, 三浦重光

岡崎市に生息するヒョウモンチョウ類の中では、最も記録が少ないチョウである。1980年代から90年代にかけては、岡崎市内において、数年間に1度、記録が出る程度であった。2006年、額田郡が岡崎市に合併され、本種の発生地として本宮山のくらがり溪谷や本宮山の西麓一帯が加わったため、東北部の丘陵地に過去の記録が点在する状況になった。しかし、最近は、ほとんど記録がなく、2011年にハツ木町で1頭が写真撮影されただけである。

(16) ウラギンヒョウモン

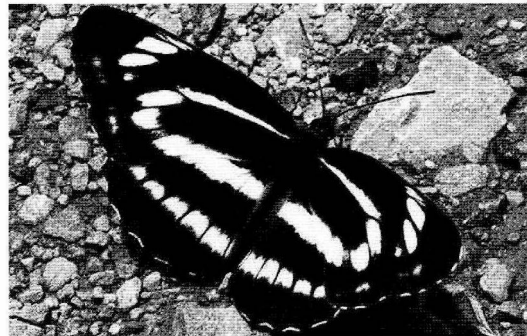


<記録>

- ・岡崎市池金町, 1979.6.10, 4♂♂, 杉坂美典
- ・岡崎市竜泉寺町, 1980.6.15, 1♂, 杉坂美典

岡崎市では、1970年代から1980年代、保母町、池金町、須渕町、大幡町の草原には少なくなく、本宮山の西麓にある各所の草原では、かなりまとまった数の個体が発生していた。しかし、1990年以降、激減し始め、2000年を過ぎてからは全く記録がない。市内で記録されているヒョウモンチョウ類7種の中では、最も激減した種である。

(17) ミスジチョウ



<記録>

- ・岡崎市石原町, 2009.6.7, 2♂♂, 杉坂美典
- ・岡崎市石原町, 2011.6.4, 4♂♂, 杉坂美典

岡崎市では、2009年6月に本宮山のくらがり溪谷で初記録が出た。その後は、毎年、同地点で発生しているが少なく、他の場所では記録がない。

くらがり溪谷では、入口付近から2km程上流までに点在するカエテ類の周辺に生息し、その発生地は極めて狭い。市外の産地では、年々減少傾向にあり、本市でも農薬散布が行われれば、姿を消す可能性は高い。

長野県平谷村のカメムシ類の記録

浅岡孝知

長野県平谷村長者峰 1573.6m には、2012年7月15日三河昆虫研究会の研修会で訪れた。エゾハルゼミが共鳴していた。頂上は高峰山 1599 m でハングライダーの地となっている。そして、2013年6月2日平谷高原に会の研修会で訪れたが、小生は所用のため阿智村だけで後にした。その後、2013年7月13日に五座小屋峠 1260m の方に寄ることができたので、これらの記録を報告したい。両機会のお世話をしてくださった山崎隆弘副会長にお礼を申し上げます。大平仁夫会長、伊藤昭博氏には同行していただき貴重なアドバイスをいただきました。感謝申し上げます。以下はその時の記録である。採集品は全て筆者が保管している。

目録

セミ科 Cicadidae

- 1) エゾハルゼミ *Terpnosia nigricosta* (Motschulsky, 1866). 調査標本：長者峰, 15- VII - 2012. 鳴き声。
割合低木の幹にも確認することができた。むしろ観察にはもってこいの高さである。この時期は天気さえ良ければ鳴いている個体数も多い。
- アワフキムシ科 Aphrophoridae
- 1) ヒメシロオビアワフキ *Aphrophora obliqua* Uhler, 1896. 調査標本：長者峰, 15- VII - 2012. 1ex.
- 2) オオアワフキ *Nikkofukia galloisi* Matsumura, 1940. 調査標本：長者峰, 15- VII - 2012. 1ex.
- 3) テングアワフキ *Philagra albinotata* Uhler, 1896. 調査標本：長者峰, 15- VII - 2012. 3exs.
南信州では普通の種であるが、愛知県では旧鳳来町や旧作手村より北に生息している種である。
- 4) クロフアワフキ *Sinophora submacula* Metcalf et Horton, 1934. 調査標本：長者峰, 15- VII - 2012. 1ex.
- ツノゼミ科 Membracidae
- トビイロツノゼミ *Machaerotypus sibiricus* (Lethierry, 1876). 調査標本：長者峰, 15- VII -



図1. 長者峰での参加者(大平・山崎・伊藤の各氏) 2012.3exs.

- 2) ツノゼミ *Orthobelus flavipes* Uhler, 1896.
調査標本：長者峰, 15- VII - 2012. 1ex.; 五座小屋峠, 13- VII - 2013. 1ex.
- クロヒラタヨコバイ科 Penthimiidae
- 1) クロヒラタヨコバイ *Penthimia nitida* Lethierry, 1876. 調査標本：長者峰, 15- VII - 2012. 1ex.
- ヒラタヨコバイ科 Aphrodidae
- 1) クロサジヨコバイ *Planaphrodes nigricans* (Matsumura, 1912). 調査標本：長者峰, 15- VII - 2012. 1ex.
- カンムリヨコバイ科 Evacanthidae
- 1) キスジカンムリヨコバイ *Evacanthus interruptus* (Linnaeus, 1758). 調査標本：長者峰, 15- VII - 2012. 1ex.
- 2) シロズオオヨコバイ *Oniella leucocephala* Matsumura, 1912. 調査標本：五座小屋峠, 13- VII - 2013. 1ex.
- フトヨコバイ科 Errhomenellidae
- 1) フタテンオオヨコバイ *Epiacanthus stramineus* (Motschulsky, 1861). 調査標本：長者峰, 15- VII - 2012. 1ex.
- オオヨコバイ科 Cicadellidae
- 1) オオヨコバイ *Cicadella viridis* (Linnaeus, 1758). 調査標本：長者峰, 15- VII - 2012. 1ex.

カスミカメムシ科 Miridae

- 1) ナラオオホソカスミカメ *Cyllecoris vicarius*
Kerzhner, 1988. 調査標本: 五座小屋峠, 13- VII - 2013.1ex.
- 2) ホソヒョウタンカスミカメ *Pilophorus eraticus* Linnavuori, 1962. 調査標本: 五座小屋峠, 13- VII - 2013.1ex.
- 3) ヒゲナガクロバカスミカメ *Apylygus furvus* (Kerzhner, 1872). 調査標本: 五座小屋峠, 13- VII - 2013.1ex.
- 4) モンキクロカスミカメ *Deraeocoris ater* (Jakovlev, 1889). 調査標本: 五座小屋峠, 13- VII - 2013.3exs.
- 5) マダラカスミカメ *Cyphodemidea saundersi* (Reuter, 1896). 調査標本: 五座小屋峠, 13- VII - 2013.1ex.
- 6) フタモンウスキカスミカメ *Lygocoris honshuensis* (Linnavuori, 1961). 調査標本: 長者峰, 15- VII - 2012.1ex.
- 7) オオチャイロカスミカメ *Orientalis tricolor* (Scott, 1880). 調査標本: 長者峰, 15- VII - 2012.1ex. 五座小屋峠, 13- VII - 2013.3exs.

マキバサシガメ科 Nabidae

- 1) ハラビロマキバサシガメ *Himacerus apterus* (Fabricius, 1798). 調査標本: 五座小屋峠, 13- VII - 2013.1ex.

ヒラタカメムシ科 Aradidae

- 1) ノコギリヒラタカメムシ *Aradus orientalis* Bergroth, 1885. 調査標本: 韮, 13- VII - 2013.3exs.

ナガカメムシ科 Lygaeidae

- 1) ムラサキナガカメムシ *Pylorgus colon* (Thunberg, 1784). 調査標本: 長者峰, 15- VII - 2012.1ex.
- 2) スコットヒョウタンナガカメムシ *Pamerana scotti* (Distant, 1901). 調査標本: 長者峰, 15- VII - 2012.1ex.

本種は南信州では、比較的多く見いだされているが、愛知県では少ない。

カメムシ科 Pentatomidae

- 1) トゲカメムシ *Carbula humerigera* (Uhler, 1860). 調査標本: 長者峰, 15- VII - 2012.1ex.;

五座小屋峠, 13- VII - 2013.1ex.

- 2) エゾアオカメムシ *Palomena angulosa* (Motschulsky, 1861). 調査標本: 長者峰, 15- VII - 2012.1ex.; 五座小屋峠, 13- VII - 2013.1ex.
- 3) アオクチブトカメムシ *Dinorhynchus dybowskyi* Jakovlev, 1876. 調査標本: 長者峰, 15- VII - 2012.1ex.
本種は南信州では各地で見いだされていて、夏以降に成虫が見られる。

ツノカメムシ科 Acanthomatidae

- 1) セグロヒメツノカメムシ *Elasmucha signoreti* Scott, 1874. 調査標本: 五座小屋峠, 13- VII - 2013.1ex.



図2. エゾハルゼミ♂長者峰 15- VII - 2012.

まとめ

以上、カメムシ類 27 種を記録する。今回の調査では、多くの種を記録することができなかったが、初めてエゾハルゼミの個体の生態写真を撮ることができたり、土場で多くのカミキリムシ類やゾウムシ類を久しぶりに観察することができたりした。時間と回数を重ねられれば愛知県豊根村と同程度の種の生息が考えられる。平谷村や阿智村、天龍村など南信州には、道路事情も良くなり日帰りで行くことができるので、これからも更に調査が進むことになろうと思われる。南信州にはシラカバ林がないと言われるが、天龍村には牧場の近くに存在していてこれぞ信州という気分を味わうことができる。

設楽ダム貯水予定区域の水生昆虫 (1)

市川 靖 浩

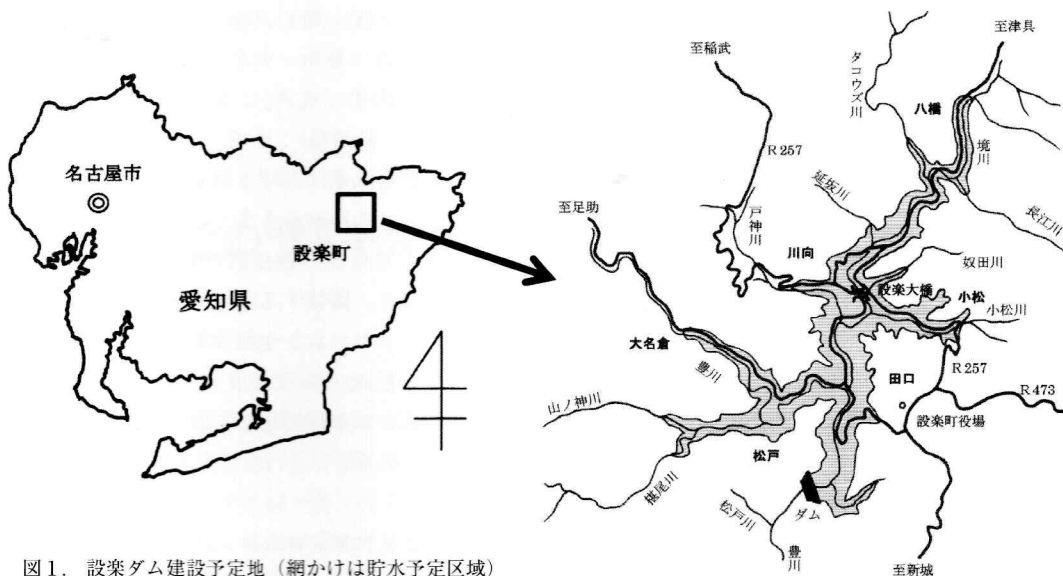


図1. 設楽ダム建設予定地 (網かけは貯水予定区域)

はじめに

豊川上流部において建設が予定されている設楽ダムは、1978年に建設計画が表明され、2009年4月に建設段階にはいった。ダムの供用により北設楽郡設楽町の複数の集落が水没することになる(国土交通省中部地方整備局 設楽ダム工事事務所, 2003-)。

筆者は2011年より豊川水系の河川や湖沼においてヒメドロムシをはじめとする水生昆虫の調査を行っている。調査のため当地を訪れるたびにダムに水没する地域の住居が取り壊されて無くなっていく現状を見てきた。貯水予定区域は、いずれ水没することになるため、その前にこの区域の生物相を少しでも記録していく必要があると思われる。しかしながら筆者にでき得ることは多くはなく、ヒメドロムシをはじめとした水生昆虫の調査に限定されると考えている。

今回は、筆者が豊川水系において採集した水生昆虫のうち、設楽ダム貯水予定区域のヒメドロムシのデータを抽出し報告する。データは非常に少ないため当該区域のヒメドロムシ相を明らかにすることはできないため今後も継続した調査を行い

たい。また、当該区域に生息する他の水生昆虫についても順次報告していきたいと考えている。

貯水予定区域のデータ

2011年から2013年までに筆者が豊川水系の河川で調査した箇所は約70地点あり、得られたヒメドロムシは1000頭を超える。このうち設楽ダム貯水予定区域に該当する箇所は10地点あり、得られたヒメドロムシは9種78頭であった。採集者および保管者は全て市川本人であり、全て乾燥標本にして保管している。この標本のデータと解説は以下に示す。採集地名は全て北設楽郡設楽町であるので町名は省略し、採集者・保管者も全て市川なので、これも省略した。

ヒメドロムシ科 Elmidae

- 1) ゴトウミゾドロムシ *Ordobrevia gotoi* Nomura
1頭, 10-X-2012, 松戸(樺尾川); 1頭, 10-X-2012, 大名倉(豊川・大名倉橋)。

川底に礫が多い河川で得られることが多い。吉富ほか(1999)は、隣接する矢作川水系では上・中流域のやはり礫に生息すると報告しており、生

息数は少ないようである。豊川水系では団子島川をはじめ局所的ではあるが多数採集できる箇所もある(市川, 未発表)。

2) アカモンミゾドロムシ *Ordobrevia maculata* (Nomura)

1頭, 10-X-2012, 松戸(樫尾川); 2頭, 10-X-2012, 大名倉(豊川・大名倉橋)。

和名にもあるように上翅の肩と末端の部分に赤い紋がある。豊川水系では比較的多い種である。

3) セアカヒメドロムシ *Optioservus maculatus* Nomura

1頭, 10-X-2012, 川向東貝津(戸神川)。

上翅の肩と末端に赤い紋がある。豊川水系では比較的少ないが上流部の森林内を流れる細流から得られることが多い(市川, 未発表)。

4) ツヤヒメドロムシ *Optioservus nitidus* Nomura

1頭, 10-X-2012, 大名倉(豊川・大名倉橋); 2頭, 9-X I-2013, 八橋的場(境川); 1頭, 9-11-2013, 八橋(タコウズ川)。

豊川水系での採集箇所は比較的多い。河床が砂や砂利のところで採集される。

5) キベリナガアシドロムシ *Grouvellinus marginatus* (Kono)

3頭, 10-VI-2012, 田口町浦(豊川); 1頭, 10-X-2012, 松戸(樫尾川); 3頭, 大名倉(豊川・大名倉橋); 2頭, 9-X I-2013 八橋滝瀬(境川・滝瀬橋)。

本種は同属のツヤナガアシドロムシ *Grouvellinus nitidus* Nomura と形態的に酷似しており同定には前胸背板を側面から見て丸みがあるか平坦であるかが区別点となる(例えば、林, 2008)。今回得られた個体は、前胸背板が平坦で皮革状であったため本種と判断した。なお、長谷川(1996)の記録も本種であり豊川水系ではツヤナガアシドロムシの採集記録は見当たらないと思われる。

6) ホソヒメツヤドロムシ *Zaitzeviaria gotoi* (Nomura)

5頭, 1-IV-2012; 小松(境川); 7頭, 10-VI-2012, 田口町浦(豊川); 2頭, 16-VII-2012; 8頭, 小松大下; 8頭, 松戸(樫尾川); 2頭, 10-X-2012, 大名倉(豊川・大名倉橋); 7頭, 9-X I-2013, 八橋的場(境川); 9頭, 9-X I-2013, 橋滝瀬(境川・滝瀬橋); 6頭, 9-X I-2013。

筆者の豊川水系における調査では産地数、採集個体数ともに本種が最も多く、この水系で採集されたヒメドロムシ全個体数の約30パーセントは本種であった。隣接する矢作川水系の調査において本種はヒメドロムシ全個体数の2パーセントにも満たない状況であり(市川, 未発表)、両水系の環境の違いが本種の生息状況に影響しているものと考えられる。

7) マルヒメツヤドロムシ *Zaitzeviaria ovata* (Nomura)

2頭, 10-X-2012, 松戸(樫尾川)。

前種とは反対に豊川水系では本種は比較的少ないが、矢作川水系では多い種である。

8) ツヤドロムシ *Zaitzevia nitida* Nomura

3頭, 10-X-2012, 大名倉(豊川・大名倉橋)。

豊川水系では少ない種である。矢作川水系では中・下流域に生息し、次種と棲み分けをしている(吉富ほか, 1999)。

9) ミゾツヤドロムシ *Zaitzevia rivalis* Nomura

2頭, 1-IV-2012; 小松(境川); 4頭, 10-VI-2012, 田口町浦(豊川); 2頭, 10-X-2012, 松戸(樫尾川)。

豊川水系ではホソヒメツヤドロムシに次いで多い種である。本種は上・中流域に生息し、吉富ほか(1999)は、同属の前種とは環境の差で棲み分けをしていることを示唆している。

最後に

設楽ダム貯水予定区域を含む豊川水系の河川の印象は、河床が岩盤で構成されている箇所が多い

ということである。隣接する矢作川水系の河川は砂・砂利の河床が多く、両河川の環境の相違がヒメドロムシの種間構成にも影響しているように思われる。このことについては現時点では感覚的なものにすぎず、今後さらに両河川のデータが蓄積されていけばヒメドロムシの生態等についても多少解明できるのではないかと考える。

設楽ダムの建設の賛否について2013年5月に愛知県知事は厳しい財政状況を理由に賛否の保留を示してきた。丁度、筆者が本報告を執筆中の2013年12月18日、県知事は建設の容認を表明した(『中日新聞』2013年12月19日朝刊)。

冒頭にも述べたが、設楽ダム貯水予定区域はダムの完成によって水没する。したがって、この区域の水生昆虫の生息状況を記録することは急務といえる。また、貯水予定区域以外にもダム完成後

の下流域の環境の改変が生物相に与える影響については注視していく必要がある。

引用文献

- 長谷川道明(1996)ヒメドロムシ科. ELMI[▶]AE. 設楽町誌自然編資料編:471-472. 設楽町.
- 林 成多(2011)島根県の水生甲虫. ホシザキグリーン財団研究報告特別号.(1):117p. ホシザキグリーン財団. 島根.
- 国土交通省中部地方整備局 設楽ダム工事事務所(2003-) 設楽ダム(2013年12月23日参照) <http://www.cbr.mlit.go.jp/shitara/01menu/04gijyut/nagare.html>
- 『中日新聞』2013年12月19日朝刊, 1面.
- 吉富博之・白金晶子・正田直之(1999)矢作川水系のヒメドロムシ. 矢作川研究 3:95-116.

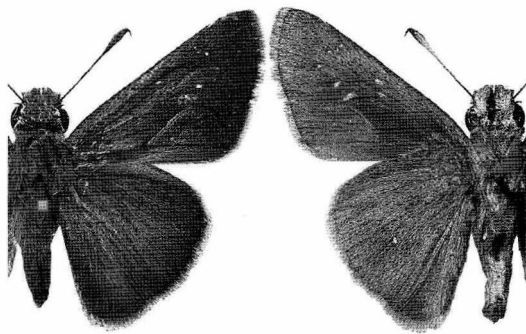
愛知県内のチャバネセセリの4月の確認例

大曾根 剛

愛知県のチャバネセセリ *Pelopidas mathias* の周年経過は、内陸部では7月に入ると飛来個体が数少ないながら観察され、以後、8~11月頃まで発生が普通に見られるようになるが、越冬幼虫は大部分が死滅し、越冬したと思われる第1世代の発生が翌年の5月下旬~6月中旬に少数見られる年があるかないかの程度であり、野外における越冬態の確実な観察例はない(高橋昭ほか, 1992)。

2013年4月27日、愛知県岡崎市中之郷町西新田の矢作川河川敷で、本種1♂を採集した。筆者はこの個体がスズメノエンドウで吸蜜したり、スキの枯葉上や地面で日光浴するのを観察したが、いずれも短時間で極めて敏速に活動しており、数回にわたり見失って、発見当時はしばらくは種の特定ができなかった。

写真のように新鮮な個体であり、大きさは通常より小型であった。また、後翅裏面の白色紋が消失傾向にある、いわゆる台湾や南西諸島で12~2月の低温期に見られる冬型の斑紋の特徴を有して



4月に確認されたチャバネセセリ♂(岡崎市産)
左:右翅表面 右:同裏面

おり、4月という早春の羽化であることも考慮すると、現地付近で幼虫が無事越冬し、春先に蛹となり発生した個体と思われた。

文献

- 高橋昭ほか(1992)愛知県のチョウ. 愛知県の昆虫(下). p30-31. 愛知県.

浅岡孝知氏採集の旧鳳来地域のコメツキムシ

大平 仁 夫

新城市の(旧)鳳来地域のコメツキムシ類については、鳳来寺山を中心に多くの記録が残されているが、棚山地域とその周辺からの記録は少ない。筆者はこのたび三河生物同好会会長の浅岡孝知氏が2013年に、この地域で採集のコメツキムシ類を調べることができたので、ここに記録することにした。

本文を草するにあたり、貴重な標本を調べる機会を与えられた浅岡氏に心から御礼を申しあげる。なお、採集年はすべて2013年で、採集者は浅岡氏であるので、本文中での個々の氏名と採集年は省略して扱った。

種の記録

1. *Adelocera (Brachylacon) difficilis* (Lewis, 1894)

シロオビチビサビキコリ

標本：1♂，柿田，6-VII.

新城市内での分布の概要は、大平・山崎(2011)が報告したように、庭野周辺の山林帯である。柿田からはこれが最初の記録である。

2. *Prodrasterius agnatus* (Candèze, 1873)

マダラチビコメツキ

標本：3♂4♀，海老宮前，18-X.

各地の雑草地帯や畑地の地表部に普通の種であるが、このように集団で生息する例は少ない。多分越冬前に集まっていたのかも知れない。

3. *Hemicrepidius (Medakathous) jactatus jactatus*

(Lewis, 1894) メダカツヤハダコメツキ

標本：1♂，柿田，6-VII.

各地の雑木林に生息するが、個体数は少ない。鳳来地域ではこれが最初の記録と思われる。

4. *Acteniceriomorphus kurofunei* (Miwa, 1934)

ミヤマフトヒラタコメツキ (図1)

標本：1♀，福川，14-VI.

体長が13-15mmもある大形で暗真鍮色、扁平状をした山岳地に分布する種である。愛知県では豊根村(兎鹿島)からの記録が分布の南限であった。新城市からはこれが最初の記録で、ここが愛

知県での分布の南限になった。棚山高原から鳳来寺山に山岳地系の種の北からの流れを示す指標種として重要な種となった。

5. *Melanotus (Spheniscosomus) koikei*

(Kishii et Ôhira, 1956) ヒラタクシコメツキ

標本：1♂，与良木，6-VII; 1♂，川売，13-VI.

照葉樹林帯に分布する種で、鳳来地域では鳳来寺山から記録されていたのみである。

6. *Ampedus (Ampedus) optabilis optabilis*

(Lewis, 1894) オオアカコメツキ (図2)

標本：1♀，会戸，6-VII.

上翅が赤褐色をした大形種で、この地方では奥三河山岳地帯から若干の記録があるのみである。

7. *Ampedus (Ampedus) japonicus japonicus*

Silfververg, 1977 アカアシクロコメツキ

標本：1♂，副川，11-IV.

体長は7.5mm内外で黒色、触角と肢は褐色～暗褐色。鳳来地域では、鳳来寺山から記録されている。

8. *Dalopius patagiatus* (Lewis, 1894)

クロスジヒメコメツキ

標本：1♂，副川，14-V.

山林性で、山道沿いの笹の葉上で見出されることが多い。愛知県には複数種が分布しているが、ともに小形で形態が類似しているため、同定は簡単ではない。

9. *Lanecarus palustris* (Lewis, 1894)

ニセクチプトコメツキ

標本：1♀，入洞，13-VI.

各地の河川の土手の笹地に分布しているが、河川整備で土の護岸が少なくなり、個体数は減少している。新城市では岡町からの記録があるのみである。

10. *Fleutiauxellus quadrillum* (Candèze, 1873)

ヨツモンミズギワコメツキ

標本：1♂2♀，連合，11-VI.

河川沿いの地表にクローバや芝などが生えた地

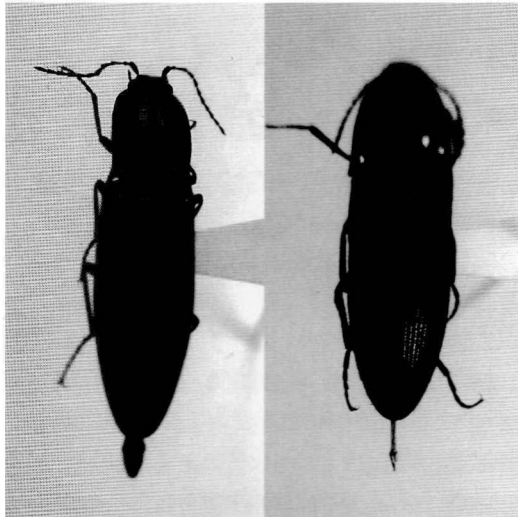


図1. ミヤマフトヒラタコメツキ (体長18mm) 図2. オオアカコメツキ (体長16mm)

表に分布している体長4mmほどの黒色で、上翅に2対の黄橙色斑を有する種で、ときに小集団で生息している。鳳来地域では七郷一色から記録している。

11. *Oedostethus telluris* (Lewis, 1879)

クロツヤミズギワコメツキ

標本：入洞, 3♂ 4♀, 13-VI.

体長3mm内外, 黒色で光沢を有し, 上翅も黒色である。河川周辺の雑木林に分布し, 小集団で見出されることが多い。新城市では作手地域から知られているのみである。

引用文献

大平仁夫・浅岡孝知(1976)愛知県のコメツキムシ(北設山岳地帯を中心にして)。茶臼山 高原道路建設予定地域の自然環境庁調査報告書: 125-229.

大平仁夫(1991)鳳来町のコメツキムシ。三河の昆虫(38): 317-3119.

----- (1993) 鳳来寺山のコメツキムシ類。鳳来寺山自然科学博物館30周年記念誌: 411-428.

----- (2012) 新城市のコメツキムシの分布資料(2011).

鳳来寺山自然科学博物館館報, (41): 49-53.

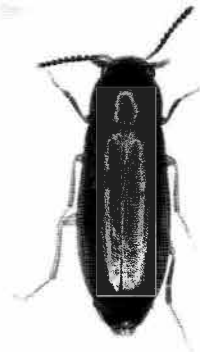
大平仁夫・山崎隆弘(2011)愛知県新城市におけるシロオビチビサビキコリの分布資料, (41): 49-53.

ナガイツツナガクチキの採集例

蟹江昇

ナガイツツナガクチキ *Rusia nagaii* (Nakane) は本州、四国、九州から採集されているが局地的な分布をするナガクチキで、愛知県では豊田市八幡町元気村が唯一の産地として知られていた。筆者は豊田市稲武町月ヶ平地区においてライトトラップに飛来した本種を得ることができたので報告する。

採集地の環境はコナラ、ミズナラなどを主体とした2次林で、近くにはアカマツの立ち枯れがいくらか認められた。元気村においても同様にアカマツの枯れ木が多数あり本種の生態と関連が疑われるが、何度かの調査においても直接アカマツから本種を見出すまでには至っていない。



採集データ

3exs, 31 - VII - 2013 蟹江昇採集

岡崎市でアカマダラハナムグリを採集

鈴木 栄一



アカマダラハナムグリ
Anthracophora
(Poecilophilides) rusticola
Burmeister は、三重県
と愛知県で準絶滅危惧と
され、近年では、減少が
著しい甲虫の一つであ
る。三河地方では豊根村、

豊川市(旧音羽町)、蒲郡市、豊橋市からの報告があるが、いずれも1980年前後のものである。

岡崎市美合町で同町在住の森田千博氏により採集されたので、報告する。同氏によると、乙川沿いの雑木林にあるクヌギの樹液にいたところを採集したとのこと。なお、同個体は現在、同氏宅で飼育観察中である。

この報告にあたり、採集記録の提供や写真撮影を快諾していただいた森田千博氏並びにさまざまな助言をいただいた大平仁夫氏にお礼申し上げます。

採集記録

岡崎市美合町:31-VIII-2013 lex. (図示した固体)
森田千博採集

引用文献

- 愛知県(2009)レッドデータブックあいち
松野史一他(1990)愛知県の昆虫(上):愛知県の
コガネムシ類:359-360
三重県(2005)三重県レッドデータブック
酒井香他(2007)日本産コガネムシ上科図説
第2巻 食葉群 I

「旧豊田市で記録が少ない種類についての報告(その5)」の訂正

吉鶴 靖 則

吉鶴(2013)において誤同定が見つかったので、ここに訂正し、お詫び申し上げます。

記録の削除 ムネモンヤツボシカミキリ(図4) *Saperda tetrastigma* Bates

古瀬間町窟谷, 30-V-2012, lex. (捕獲: 大脇雅久; 撮影) 図4. ムネモンヤツボシカミキリ

図4はヤツメカミキリ *Eutetrappa ocelota* (Bates) であり、筆者が写真を取り違えたものであった。データはムネモンヤツボシカミキリのものであったが、証拠が豊田市自然観察の森に残されていないことが判明したので、記録を削除することとした。

データを提供していただいたにも関わらず、大脇雅久氏はじめ、ご迷惑をおかけした方々に改めてお詫び申し上げます。また、ご指摘をいただいた豊島健太郎氏、蟹江昇氏に御礼申し上げます。

文献 吉鶴靖則(2013)旧豊田市で記録が少ない種類についての報告(その5)。三河の昆虫, (60): 794-796

◇平成24(2012)年度の総会◇

平成24(2012)の総会は、平成25(2014)年3月に22日に岡崎市の竜美丘会館で開かれ、名古屋大学大学院の大場博士をはじめ、往年の研究会を支えていただいている虫屋中間も多く集まっていた楽しい総会でした。

出席者: 前列右より浅岡孝知, 山崎隆弘, 鈴木友之, 大平仁夫,

大場裕一, 間野隆弘, 松井直人

後列右より小鹿 亨, 豊島健太郎, 伊藤昭博, 蟹江 昇, 白石和伸, 判家卓司, 山本英治, 吉鶴靖則, 杉坂美典, 喜多亮介, 鈴木栄二, 市川靖浩, 城殿 浩, 喜多亮介, 杉浦 昌, 早川 忍, 金田吉高。



新城市北西部におけるクロゲンゴロウの記録

市川 靖 浩

クロゲンゴロウ *Cybister brevis* Aube, 1838 (図1) は、体長 20 ~ 25 mm の大型のゲンゴロウで背面は緑色あるいは褐色をおびた黒色で光沢があり (森・北山, 2003)、特徴的な形質から同定は容易である。

本種は全国 20 都府県のレッドデータブックに掲載されており (野生生物調査協会・Envision 環境保全事務所, 2007 -)、愛知県では絶滅危惧 II 類 (VU) に選定されている (愛知県, 2009)。

最近公表された岡崎市版レッドリスト (岡崎市, 2013) においても絶滅危惧 II 類 (VU) に選定されており、三河地方でも本種の生息状況が危ぶまれていると考えられる。

過去における本種の分布状況は、穂積・佐藤 (1957) によると東海地方の各地に見られるとしており、半世紀以上前には普通種であったことが伺える。しかし近年の既知記録は、西三河地方山間部で数箇所があるほか、東三河地方では設楽町と新城市南部で各 1 箇所の記録があるのみである (大平・永井, 1996; 大平ほか, 1996; 城殿, 1999; 都築, 2000; 蟹江, 2005)。

筆者は、新城市北西部において県下では希少である本種を採集しているので、分布の記録として報告する。採集地名については、本種保護上の観点から公表しないものとした。

<データ>

クロゲンゴロウ *Cybister brevis* Aube, 1838

1 ♂, 愛知県新城市北西部, 13-X-2013, 市川靖浩採集・保管。

引用文献

- 愛知県 (2009) レッドデータブックあいち 2009 動物編。651pp. 愛知県環境部自然環境課。
- 穂積俊文・佐藤正孝 (1957) 東海甲虫誌 (第 3 報)。佳香蝶, 9 (31): 1-10。
- 城殿 浩 (1999) 三河における水生昆虫について。三河

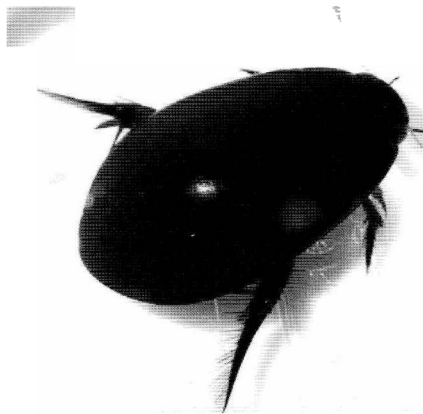


図 1. クロゲンゴロウ (生体)

の昆虫, (46): 464.

森 正人・北山 昭 (2002) 「改訂版 図説日本のゲンゴロウ」231pp. 文一総合出版, 東京。

岡崎市 (2013) 岡崎市版レッドリスト. (2013年12月15日参照)

<http://www.city.okazaki.aichi.jp/class/p012519.html>

大平仁夫・永井 貞 (1996) ゲンゴロウとクロゲンゴロウ豊田市に分布. 三河の昆虫, (43): 423-424.

大平仁夫・蟹江 昇・河路掛吾・長谷川道明・松野更一・山崎隆弘 (1996) 甲虫類. 設楽町誌自然編資料: 449-551. 設楽町。

都築裕一 (2000) 豊田市山間部におけるクロゲンゴロウの季節推移. 三河の昆虫, (47): 492-494.

蟹江 (2005) コウチュウ目 Coleoptera. 豊田市自然環境基礎調査報告書 (資料編): 161-236. 豊田市自然環境基礎調査会, 豊田市。

野生生物調査協会・Envision 環境保全事務所 (2007 -) 日本のレッドデータ検索システム。

(2013年12月15日参照)

<http://www.jpnrdb.com/search.php?mode=map&#>07180111775.

岡崎市矢作川河川敷に生息する4種のコメツキムシの記録

大平 仁 夫

岡崎市の矢作川河川敷に生息するコメツキムシ類は大平(1985)が報告しているが、その報告の中で矢作とされている種の大部分は河川敷で見出された種で。その当時の河川敷は幅広い砂地や草地や雑木林が散在していて、河川敷性以外の昆虫類も多く生息していた。その砂地で見出されたジュウジミズギワコメツキは、準絶滅危惧種(NT)として2009年の「レッドデータあいち」の中で指定されている。

筆者は、大門町周辺の矢作川左岸(下流に向かって左側)の河川敷を調査し、若干の知見を得たのでここに記録する。なお、採集者はすべて大平本人である。

種の記録

1. *Fleutiauxellus cruciatus* (Candèze, 1873)

ジュウジミズギワコメツキ

本種は本州の栃木県から近畿地方の河川敷の下流部に分布する体長5mm内外で黒色、上翅に4個の黄橙色の有するやや扁平状の種である。愛知県内では矢作川と豊川の河川敷の下流部に分布していて、矢作川では古い記録で西尾市河川敷からの記録があるが、現在では岡崎市の矢作橋から豊田市畝部町あたりの矢作川右岸で若干の個体が分布していることを岩月(2007)の調査で判明しており、豊川では豊橋市加茂町から下流が主な分布地として記録されている。

本種の矢作川河川敷きでの分布は、岡崎市史の記録から岩月(2007)までなく、ここでは絶滅したと思われるが、筆者の調査で矢作川左岸でもまだ小数個体が分布していることが判明した。個体数は少なく絶滅に近い状態には変わりがない。成虫の発生期は5月から6月頃である。

調査標本: 1♂2♀♀, 12-VI-2013.

2. *Fleutiauxellus curatus curatus* (Candèze, 1873)

ミズギワコメツキ

本種は本州から九州(北海道産は別亜種)の各地の河川の下流部の砂礫のあるところに分布する

普通種である。体長は5mm内外で細長く背面はやや扁平状で、光沢は鈍く、上翅には斑紋を有しない。成虫は河川敷の砂礫のあるところに分布していて、周辺に生えているよもぎ類やネコヤナギに発生するアブラムシ類の甘露などに飛来している。

調査標本: 1♂1♀, 12-VI-2013.

3. *Oedostethus telluris* (Lewis, 1894)

クロツヤミズギワコメツキ

本種は分布が広く、北海道から九州の各地から記録されていて、河川敷から離れた灌木林にも見出され、愛知県では三河山岳地帯の谷川沿いの灌木林に多く見出され、ときに集団で発生している。

体長は4mm内外で光沢を有し、上翅には斑紋は有しない。

調査標本: 1♂, 12-VI-2012.

4. *Paracardiophorus opacus* (Lewis, 1894)

クロハナコメツキ

本種は最初に静岡県御殿場近くで見出された個体に基づいて新種として記載された体長6~7mm内外のこの属では大形種である。往時は山岳地に分布する個体数の少ない種とされていたが、最近では河川敷に北海道から九州にかけて広く分布する種とされている。この属の種はどれも外形が類似していて、外形だけでは簡単に識別できなく、現在では♀の内部性生殖器の構造で識別している。本種は岡崎市の矢作川河川敷きからは最初の記録である。

調査標本: 1♂2♀♀, 12-VI-203; 1♂1♀, 25-VI-2013.

引用文献

岩月 学(2007) 矢作川流域のジュウジミズギワコメツキの生存記録。三河の昆虫, (54): 650-651.

大平仁夫ほか(1985) 岡崎市の動物(新編岡崎市史・自然14): 665-1218.

愛知県(2009) レッドデータブックあいち 2009: 649pp. (愛知県環境部自然保護課)

新シリーズ・昆虫と私(17)

間野 隆 裕

小学校の頃から「トンボちゃん」と言われていた僕が、本格的にチョウ採集をするようになったのは、高校入学式前、友人に誘われて生物部に入部してからでした。そして大学の卒論でガ類を纏めたことがきっかけとなり、ガ類にのめり込み今に続いています。年齢と共に、その行動範囲も県、国、周辺諸国へと広がり、10余年前に高校教員から現在の職場に変わってからは、望むか否かにかかわらず、分野も種生態や分類のほか自然環境や種の保全など関連分野に広がりました。これまでの間、愛知県や三重県の各種ガ類関連調査を通じて地域のファウナに精通できたことは大変な幸運でしたし、多くの指導者や先輩諸氏に恵まれ、導

いて頂いたことがあってこそ今の自分があると痛感しています。その感謝と共に恩返しの意味も含めて、最近は次世代育成にも力を入れています。近年の自然環境の劣化は加速度的で、目を見張るものがありますが、その自然環境保全に少しでも役立ちたいと思っていますし、やっぱり大好きな虫取りを継続しつつ、虫取りが出来る環境作りにも力を注ぎたいと思っています。



新シリーズ・昆虫と私(18)

安 藤 尚

今日まで昆虫との付き合い方に濃淡はあったものの、小学校高学年のときに父に連れられて岐阜の金華山で昆虫採集をした昆虫少年時代からおよそ70年、「虫」との付き合いが途切れることなく続いています。

本腰を入れて昆虫採集をするようになったのは、高校生ときに生物クラブに入ってからです。昆虫熱が高じて、高校2年のときに仲間4人で一宮昆虫同好会(現、名古屋昆虫同好会)を創立し、「佳香蝶」という雑誌まで作りました。この会誌の創刊号(1949年発行)の会員名簿の欄には、本会会長大平仁夫氏の名前が載っています。岐阜の名和昆虫博物館に勤務されていた頃のことです。

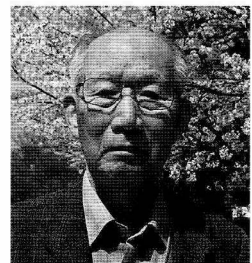
大学生時代は、学会誌の日本語の論文などを拾い読みしていました。トンボの採集に重きをおくようになったのはこの頃からです。4年の時、同じ学年だった権田武氏と二人で、数日、三河の山里で昆虫採集をしました。彼の親戚の家に泊ってもらった際に聞いたコノハズクの声は、何故か、採集した2匹のサナエトンボとともに強く印象に残っています。

社会人となって、地元の中学校で20年、愛工

大名電高校で23年、理科担当の教員生活を送りました。高校勤務時代は、愛知県自然環境保全審議会専門調査員の仕事をしていた関係もあって、トンボ以外の昆虫もいろいろ採集しました。この経験は、自然環境の仕組みをより深く考える切っ掛けを与えてくれました。

以前は北海道などへも出かけたことがありましたが、20年ほど前から愛知県と岐阜県での採集が多くなりました。やがて、自分で採集したものや昆虫愛好家から恵与されて所蔵してきたトンボ標本を種ごとに整理し、「愛知と岐阜のトンボ・分布資料(*)」という表題で報文を作り、同好会誌「佳香蝶」に投稿するようになりました。資料(17)まで発表済です。記録したトンボはおおよそ14,000匹になりました。

昆虫採集とその記録の発表は、「体・気・智力」が保たれている間(何時まで続くか?)は続けたいと考えています。



竜頭山採集記

伊藤昭博

2013年の採集会は4回行われたが、私はすべてに参加してみた。4月21日に岡崎市の高隆寺町「太陽の丘自然歩道」では浅岡氏・杉浦氏・山崎氏と、5月6日に豊橋市の「岩屋山と小島町海岸」では浅岡氏・山崎氏と、6月2日に長野県下伊那郡の「治部坂から平谷高原」では大平氏・杉浦氏・浅岡氏・山崎氏と、そして、7月21日に遠州天竜区の「竜頭山」では山崎氏と参加した。

その中で最も印象深かったのが「竜頭山」であった。参加者は2人だったので豊橋市嵩山町で合流した後、三ヶ日経由で現地へと向った。天竜川沿いの152号線を走り福沢から林道を駆け上がった。途中、珍しいヤマゴボウの群落があり写真に収め、1,000m付近では眼の前にニホンカモシカの親子も現れた。しばらくして、天竜スーパー林道に出た。目的地の「天竜の森」はほどなく到着した。時計を見ると10時30分を指していた。竜頭山は標高1,351mである。広い駐車場から整備された登山道がある。山頂までの標高差は約200mである。私は山頂を目指した。クモキリソウがあった。また、頂上付近のバイケイソウの群落は見事であった。しかし、曇天のためかチョウの姿はツマグロヒョウモンだけであった。下山の途中蝶屋さんの2組に出会った。そこで「何か採集できましたか」と尋ねてみたところ無返事だっ



見晴らしのよい登山口にある大駐車場と案内板

た。ここは好採集地なのかさらに駐車場にも3組のネットを持った虫屋とも出会った。

この日私のカメラには各種の植物と昆虫のカバイロコメツキや、ヨツスジハナカミキリの虫たちと自生のヒメシャラなどが収まった。同行の山崎氏は甲虫を狙ってビーティングに熱中していた。ハムシ類やカミキリ類、コメツキ類やカメムシ類が沢山採れたと喜んでいて。帰路はガスに煙るスーパー林道を、秋葉神社方面へと快適な自然を堪能しながら帰途についた。



濃霧に煙る天竜の森中央駐車上で筆者



霧の這う竜頭山の中腹には各種の昆虫類が多くいた